

1. 開催日時 令和2年7月10日(金) 14:00-15:30
2. 開催場所 Web開催(Zoom)
3. 出席者 細田、斎藤、真田、大森、武田、山田、平尾、谷、折田、外間、辻口
4. 議事
 - 1) 委員会の設置主旨及び委員紹介
 - 2) 委員会のスケジュールおよび検討項目について
 - 3) その他、事務連絡

5. 配布資料

資料1 緊急時モニタリング検討委員会概要

資料2 臨時委員会のスケジュール及び検討項目について

資料3 委員会検討項目(案)

6. 議事

1) 委員会の設置主旨及び委員紹介

- 委員長より、資料1に基づいて委員会設置趣旨の説明があり、各委員より自己紹介がなされた。
 - ・ 委員より、緊急時モニタリングに関するアジア諸国との連携が強化されるような成果活用・提言が重要ではないか、との発言があった。
 - ・ 委員より、原子力災害時の緊急時モニタリングだけでなく(核)テロの様な他の放射線緊急事態時にも活用可能な提言を盛り込むことに意義があると思う、との発言があった。

2) 委員会のスケジュールおよび検討項目について

- 幹事より、資料2に基づいて委員会スケジュールの説明がなされた。
- 委員長より、資料3に基づいて活動計画概要の説明がなされた。
 - ・ 委員より、アンブレラ事業の成果報告書とレビュー論文以外にも、調査・収集した情報を学会オンライン刊行物の様な形で公開してはどうか、との発言があり、委員よりこれに賛同する旨発言があった。今後は、年度報告書、レビュー論文及び学会成果報告書の作成に向けて活動することとなった。

- 委員長より、資料3に基づいて委員会検討項目（案）の説明がなされた。
- ・ 各委員より、①全体的な体制と技術について上手く住み分けして報告書を作成してはどうか、②初期・中長期という分け方も考慮してはどうか、③国際機関の動向調査において UNSCEAR の優先順位は低いのではないかと、④BfS（ドイツ連邦放射線防護庁）の動向調査を計画してはどうか、⑤アジア圏内での緊急時モニタリングに係るネットワーク構築に関する提言が重要ではないかと、⑥情報伝達だけではなく、緊急時の情報収集に係る報告および提言も必要ではないかと、⑧住民やメディアといった多種との情報伝達に関する報告および提言も必要ではないかと、といった発言があった。
 - ・ 委員の意見交換において、委員間で役割分担をしたうえで情報収集をし、今後必要に応じて報告書の細分化を決めていく方針で進めることになった。
 - ・ 幹事が協議を踏まえた議事メモを作成・配信し、報告書作成に向けた役割分担を調整していくこととなった。

1) その他、事務連絡

- ・ 幹事より、保物学会事務局から今年度の活動経費として 30 万円の執行がみとめられている旨報告があった。年度内に対面での委員会を開催できる場合は各員の旅費に執行するとのこと。
- ・ 次回委員会は今後メールにて調整することとなった。

以上

書記：辻口